



# カナダ野生動物見聞記

おとめ つぐお  
五月女 次男

バンクーバーのスタンレー・パークを歩くと、リスがあちこちで跳びはねている。慣れてしまえば別に驚くこともないが、初めてカナダの大地を踏んで野生動物を見ると、これは日本とは違うぞ、という気がして来る。

バンクーバー島の北にポート・ハーデューという小さな村があり、そこからポートで海に出ると、七月―九月ならシャチが見られる。北太平洋にいるシャチは、夏になると、バンクーバー島の内海にやって来て、主に鮭を食べる。鮭が川を上る九月下旬になると、シャチもまた北の海に帰ってしまう。シャチはクジラを襲うのでキラウエールとも呼ばれるが、一般的には余程食べる魚が少ない時以外は、他のクジラ類を襲うことはない。時間は一定していないが、日に二、三回、シャチは十頭ぐらいの群れをなして内海に現われる。シャチが往復するルートも大体決まっている。それは恐らくシャチが最大の獲物とする鮭の生息場所と関係があるのだろう。大きな背ビレを水面から出してゆつくりと泳ぐ姿は、まさに海の王者の風格がある。

## 国立公園の動物たち

バンクーバーから北上してロッキーマウンテンを越えると、日本人には最も人気のあるバンフ国立公園がある。この公園を縦貫するハイウエーを走る車の中から、時にヘラジカが見られよう。シカの仲間では最大の動物で、大きいのは体長三メー

トル、体重八百キロもある。

ヘラジカは、トナカイと違って、大きな群れは作らない。単独か少数の群れで森林や水辺を歩いている。食物は草や木の葉、広葉樹のカバ、ハンノキ、ヤナギの葉などを食べる。ヘラジカは走るより泳ぐのが上手だ。聴覚が鋭く、天敵のオオカミが近づくとすぐに察知して逃げる。

ロッキーマウンテンから北極圏あたりまでの森林帯には、ハイイログマ、クズリ、オオカミ、キツネ、コヨーテ、カナダリスなどが住んでいるが、いずれもなかなか人の目にはつかない。バンフ国立公園からさらに北に向かうと、ジャスパー国立公園。ここは北米最大の面積をもっている。このハイウエーでハイイログマに出会うのは割りとやさしい。最近ではキャンプ場やホテルの残飯をあさるためにゴミ捨て場にやって来るようになって、この数が多いので公園管理官を悩ませている。体色は必ずしも灰色ではなく、さまざまの色をしている。ロッキーマウンテンの中腹あたりまで登ると、ガレ場の上にドールシープ（野生のヒツジ）がいる。岩山の近くではシロイワヤギ（別名マウンテンゴート）が小さなグループを作っているのが見られる。

北米大陸では、アメリカよりむしろカナダのロッキーマウンテン周辺の方が、多くの野生動物に接する機会が多いだろう。それだけに、一人歩きは危険な場合もある。国立公園の管理官によく聞いてから出かけることだ。

カナダでは北緯六十度線を一応の区切